

水難者数等の統計及び水難事例

● 水難者数等の統計

警察庁等が公開している統計から、過去の水難者等を整理、分析した。

・水難者数（過去 5 年間）

全国 8017 人、東京都 407 人

水難者数はおおむね横ばいで推移（全国約 1600 人／年、東京都約 80 人／年）。

夏期に水難者が多い（7、8 月の 2 か月間で、年間の約 1/3 の水難者が発生）。

・水難者の死者・行方不明者の割合（過去 5 年間）

全国 45%、東京都 59%

水難者の死者・行方不明者の割合は高い。

夏期（7、8 月）は、年間に比べて死者・行方不明者の割合が低い。

・ライフジャケット着用状況等

〔海でのレジャーに伴う水難時（過去 10 年間）〕

着用率 釣り中 25.7%、遊泳中 4.2%、磯遊び中 1.8%

死者・行方不明者の割合は、活動内容により数値は異なるが、ライフジャケット着用時は、非着用時に比べて 1～3 割程度低い。

〔川、湖沼等でのレジャーに伴う水難時〕

着用状況等については、統計からは確認できなかった。

● 水難事例

東京消防庁へ依頼し、提供を受けた救急搬送事例を整理、分析した。

・水難に伴う救急搬送者数（過去 5 年間）

東京消防庁管内 281 人

〔傾向〕

重症度が高い人が多い（死亡と重篤を合わせると、全体の約 6 割を占める）。

高齢者が多い（65 歳以上が、全体の約 4 割、死亡・重篤の約 5 割を占める）。

発生場所は、河川が多く、全体の約 8 割を占める。

発生時動作は、不明以外では、陸からの転落等が最も多く、次いで遊泳中が多い。

・レジャー中の水難事例

水難に伴う救急搬送者（過去 5 年間、プール除く）262 人の中で、レジャー中の水難と分かるもの（推測を含む）は、35 人。そのうち、死亡又は重篤は 10 人、ライフジャケット着用が分かるものは 1 人であった。

※ 割合の数値（%）は、四捨五入していることから、合計で 100%とにならない場合がある。

第1 水難者数等の統計

警察庁等が公開している統計から、過去の水難者数等を整理、分析した。

1 水難者数

過去5年間（2019～2023年）の水難者数は、全国8017人、東京都407人であった。水難者数の推移を図1に、都道府県別水難者数（上位3都道府県）を表1に示す。主な傾向は次のとおり。

- ・水難者数はおおむね横ばいで推移している（全国約1600人／年、東京都約80人／年）。
- ・子供（中学生以下）と比べると、大人（高校生以上）の水難者が多い。
- ・夏期に水難者が多い（7、8月の2か月間で、年間の約1/3の水難者が発生）。
- ・都道府県別でみると、東京都の水難者数が比較的多い（全国2位が過去4年継続）。

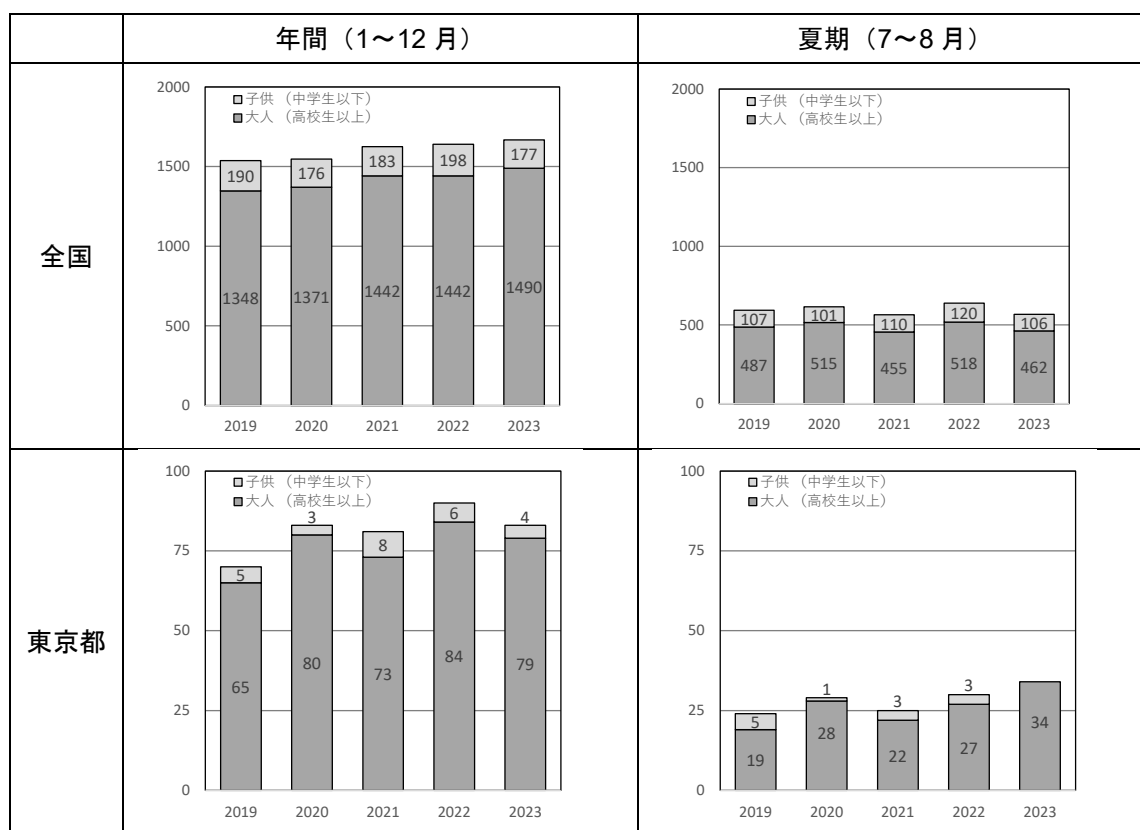


図1 過去5年間（2019～2023年）の水難者数¹

表1 都道府県別の水難者数（上位3都道府県）²

年	2019	2020	2021	2022	2023
1位	兵庫県 84	沖縄県 103	沖縄県 139	沖縄県 143	沖縄県 169
2位	千葉県 81	東京都 83	東京都 81	東京都 90	東京都 83
3位	沖縄県 74	千葉県 76	北海道 78	滋賀県 82	神奈川県 79

※ 2019年 4位 東京都（70人）

¹ 警察庁「水難の概況等」をもとに作成

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/sounan.html>

² 同上

2 水難者の死者・行方不明者の割合

過去5年間（2019～2023年）の水難者の死者・行方不明者の割合を、図2に示す。主な傾向は次のとおり。

- ・水難者の死者・行方不明者の割合は高い（全国45%、東京都59%）。
- ・夏期（7、8月）は、年間に比べて死者・行方不明者の割合が低い。
- ・東京都は、全国と比べて死者・行方不明者の割合が高い。

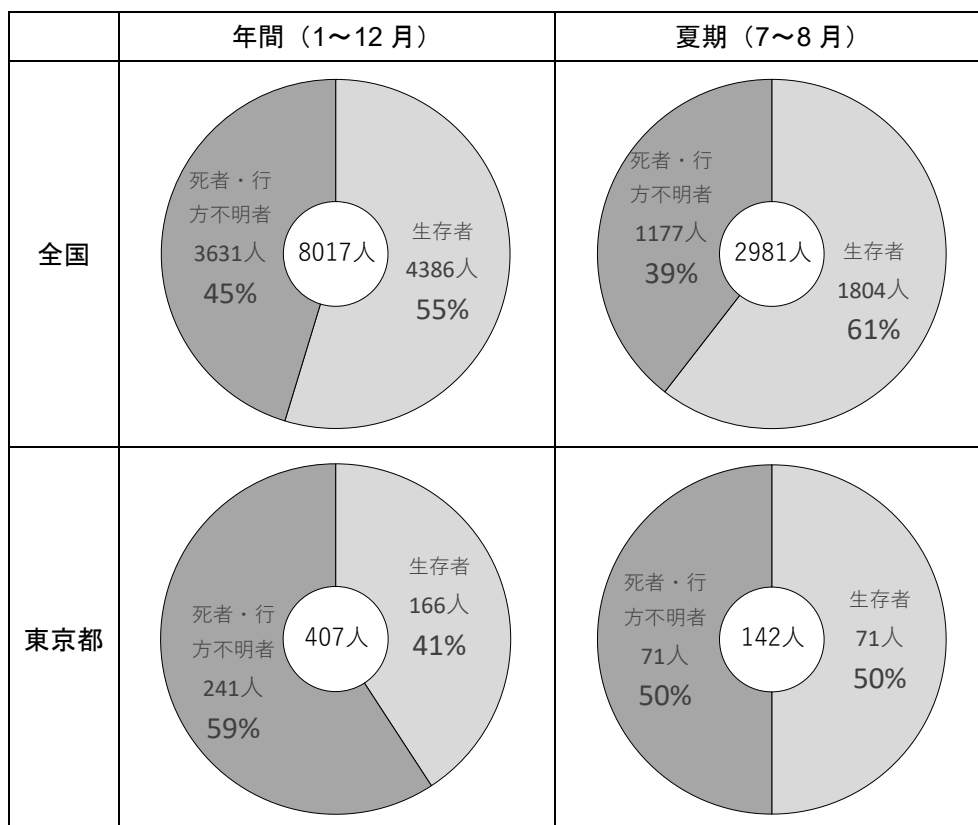


図2 過去5年間（2019～2023年）の水難者の死者・行方不明者の割合³

³ 警察庁「水難の概況等」をもとに作成

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/sounan.html>

3 ライフジャケット着用状況等

(1) 海でのレジャーに伴う水難時

過去 10 年間（2014～2023 年）のマリンレジャーに伴う海浜事故⁴におけるライフジャケットの着用状況等を、主な活動（釣り中、遊泳中、磯遊び中）別に、図 3 に示す。主な傾向は次のとおり。

- ・ライフジャケット着用率は、釣り中の水難者が比較的高い一方、遊泳中・磯遊び中は低い。
- ・死者・行方不明者の割合は、ライフジャケット着用時は、非着用時に比べて 1 ～ 3 割程度低い。

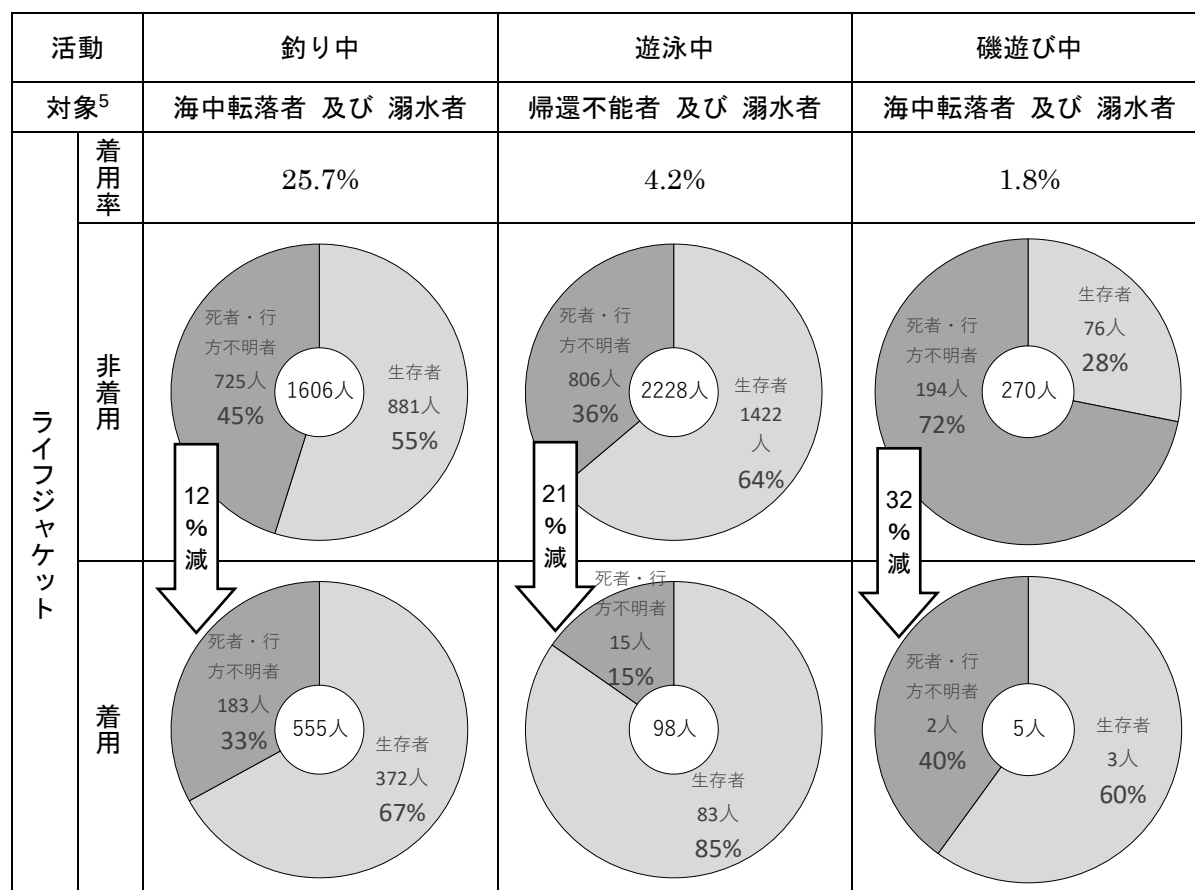


図 3 過去 10 年間（2014～2023 年）のマリンレジャーに伴う海浜事故における
主な活動内容別のライフジャケット着用状況等⁶

(2) 川、湖沼等でのレジャーに伴う水難時

海以外の場所（川、湖沼等）でのレジャーに伴う水難者のライフジャケットの着用状況等は、統計からは確認できなかった。

⁴ 海水浴、釣り、潮干狩り等の海洋における余暇活動に伴って発生した事故をいう。（海上保安庁「海難の現況と対策」の「海難定義・海難種類」より）

⁵ 陸上での活動は「海中転落者及び溺水者」、水中での活動は「帰還不能者及び溺水者」を対象にした。

海中転落：海中への転落をいう。（自殺を除く。）

溺水：海で溺れた場合をいう。（海中転落を除く。）

帰還不能：漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態となった場合をいう。

（海上保安庁「海難の現況と対策」の「海難定義・海難種類」より）

⁶ 海上保安庁「海難の現況と対策」の「人身事故データ」をもとに作成

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/hakkou/toukei/toukei.html>

第2 水難事例

東京消防庁へ依頼し、提供を受けた水難事故における救急搬送事例を整理、分析した。
東京消防庁管内における過去5年間の水難に伴う救急搬送者数は、281人⁷であった。

〔水難に伴う救急搬送者数〕

過去5年間（2019～2023年） 計 281 人 東京消防庁管内 （東京都のうち、稲城市 島しょ地区を除く地域）	抽出事例	事故種別：水難事故 発生場所：海、河川、湖沼、池、プール等
	除外事例	・自殺が疑われるもの ・溺水ではないと思われるもの（負傷等） ・車両により入水したもの ・浴室（浴槽、シャワー等）が発生場所のもの ・簡易プールが発生場所のもの

1 重症度及び年齢の傾向

過去5年間の東京消防庁管内の水難に伴う救急搬送者を、重症度、年齢層別に集計したものを、表2、表3に示す。主な傾向は次のとおり。

- ・重症度が高い人が多い（死亡と重篤を合わせると、全体の約6割を占める）。
- ・高齢者が多い（65歳以上が、全体の約4割、死亡・重篤の約5割を占める）。

表2 重症度⁸（初診時程度）別

	過去5年間の 水難に伴う 救急搬送者数	
死亡	96	34%
重篤	75	27%
重症	27	10%
中等症	44	16%
軽症	39	14%

死亡・重篤 171人 61%
重症・中等症・軽症 110人 39%
281人

表3 年齢層別

		過去5年間の 水難に伴う救急搬送者数			
				死亡・重篤	
年 代	10歳未満	13	5%	5	3%
	10歳代	24	9%	5	3%
	20歳代	26	9%	11	6%
	30歳代	20	7%	6	4%
	40歳代	19	7%	13	8%
	50歳代	33	12%	17	10%
	60歳代	50	18%	39	23%
	70歳代	69	25%	54	32%
世 代	80歳以上	27	10%	21	12%
	15歳未満	26	9%	8	5%
	15歳以上 65歳未満	146	52%	79	46%
	65歳以上	109	39%	84	49%

⁷ 東京消防庁の救急搬送事例から、自殺が疑われるもの等を除外し、集計したもの。推測での分類も含むため、実際と異なる可能性がある。

⁸ 死 亡：初診時死亡が確認されたもの
重 篤：生命の危険が切迫しているもの
重 症：生命の危険の可能性のあるもの

中等症：生命の危険はないが入院を要するもの
軽 症：入院を要しないもの
（傷病者重症度分類表より）

2 発生場所及び発生時動作の傾向

過去5年間の東京消防庁管内の水難に伴う救急搬送者を、発生場所、発生時動作別に集計したものを、表4、表5に示す。主な傾向は次のとおり。

- ・発生場所は、河川が多く、全体の約8割を占める。
- ・発生時動作は、不明以外では、陸からの転落等が最も多く、次いで遊泳中が多い。

なお、不明は全体の約7割、死亡・重篤の約8割を占める。

表4 発生場所別

	過去5年間の 水難に伴う救急搬送者数			
			死亡・重篤	
河川	225	80%	140	82%
海	22	8%	14	8%
プール	19	7%	10	6%
池	11	4%	4	2%
用水路	4	1%	3	2%

表5 発生時動作別

		過去5年間の 水難に伴う救急搬送者数			
				死亡・重篤	
陸からの転落等		52	19%	21	12%
	低所（岸等）からの転落・飛び込み	28	10%	7	4%
	高所（橋等）からの墜落・飛び降り	24	9%	14	8%
遊泳中		14	5%	8	5%
	川	8	3%	4	2%
	プール	6	2%	4	2%
船からの落水等		11	4%	3	2%
	船の転覆・浸水	6	2%	2	1%
	船からの落水	5	2%	1	1%
救助のための入水		9	3%	3	2%
水中の転倒		4	1%	0	0%
その他		4	1%	1	1%
不明		187	67%	135	79%

【参考】全国と東京都の比較⁹

水難者の発生場所及び年齢層について、全国と東京都（稲城市、島しょ地区を除く地域）の過去5年間の比較を、表6に示す。主な傾向は次のとおり。

発生場所：

東京都は、全国と比べて河川での水難が非常に多い一方、海での水難が少ない。

また、プールでの水難が比較的多く、用水路での水難が比較的少ない。

年齢層：

東京都、全国ともに、高齢者（65歳以上）の死者等の割合が高い。

また、東京都と全国の傾向は似ており、高齢者（65歳以上）の水難が比較的多い。

表6 過去5年間（2019～2023年）の水難者の発生場所及び年齢層

	全国 警察庁の統計より ¹⁰					東京都（稲城市、島しょ地区を除く地域） 東京消防庁の救急搬送事例より				
発生場所		水難者数				水難に伴う救急搬送者数				
					死者・行方不明者				死亡・重篤	
	河川	該当する 統計なし	1225	34%		河川	225	80%	140	82%
	海		1837	51%		海	22	8%	14	8%
	プール		22	1%		プール	19	7%	10	6%
	湖沼池		188	5%		池	11	4%	4	2%
	用水路		328	9%		用水路	4	1%	3	2%
	その他		31	1%						
年齢層		水難者数				水難に伴う救急搬送者数				
					死者・行方不明者				死亡・重篤	
	中学生以下	924	12%	142	4%	15歳未満	26	9%	8	5%
	高校生以上 65歳未満	4228	53%	1447	40%	15歳以上 65歳未満	146	52%	79	46%
	65歳以上	2680	33%	1860	51%	65歳以上	109	39%	84	49%
	不明	185	2%	182	5%					

⁹ 「警察庁の統計（全国）」と「東京消防庁の救急搬送事例（稲城市、島しょ地区を除く東京都の地域）」は、事故の収集・判定等の基準・方法が異なると思われるため、参考比較として掲載する。

¹⁰ 警察庁「水難の概況等」をもとに作成

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/sounan.html>

3 レジャー中の水難事例

過去5年間の東京消防庁管内の水難に伴う救急搬送者（プールを除く）262人の中で、レジャー中の水難と分かるもの（推測を含む）は、35人であった。

レジャー中の水難と分かる救急搬送者を、年齢層、活動内容別に分類したものを表7に示す。

表7 過去5年間（2019～2023年）のレジャー中の水難と分かる救急搬送者

東京消防庁管内の水難に伴う救急搬送者数（プールを除く）					
262 (161)					
レジャー中の水難と分かるもの（推測を含む）					
35 (10)					
年齢	15歳未満		15歳以上 65歳未満		65歳以上
	10 (3)		19 (5)		6 (2)
場所 活動内容	川 水遊び・遊泳	川 釣り	川 ボート遊び	川 その他	海 ボート遊び
	24 (7)	5 (2)	4 (1) カヌー 2(0) 船種不明 2(1)	1 (0) 沢登り	1 (0) ジェットスキー

（注1）カッコ内は死亡・重篤の人数

（注2）該当する救急搬送者数であり、この数値は発生割合を示すものではない。

レジャー中の水難と分かる救急搬送者で、重症度が死亡又は重篤であった事例を、次に示す。

〔レジャー中の水難事例 重症度：死亡又は重篤¹¹〕

〈川、水遊び・遊泳〉 ■家族及び友人の計6名で訪れ、川が合流する橋付近で昼過ぎから川遊びをしていた際、子供1名が川の下流に流された。子供が流されてくるのを橋上で目撃した複数名が救急要請した。 （10歳未満・死亡）
〈川、水遊び・遊泳〉 ■友人3名で川遊びをしていた。内2名が川に潜った後上がってこないことに釣り人が気づき、通報した。 （溺水者1：10歳代（15歳未満）・重篤 溺水者2：10歳代（15歳未満）・重篤）

¹¹ いずれの事例も、事故時のライフジャケット着用状況（着用又は非着用）は不明であった。

〈川、水遊び・遊泳〉

- 友人4名で遊泳していたところ、2名が川に流された。1名は50mほど下流の岩にしがみついて動けなくなった状態となり、もう1名はうつ伏せの状態で見失われた。橋上より発見した人により救助要請された。

（岩にしがみついて動けなくなった者：10歳代（15歳以上）・軽症
うつ伏せの状態で見失われた者：10歳代（15歳以上）・死亡

〈川、水遊び・遊泳〉

- 河川敷に家族で遊びに来ていた。1名が川に飛び込み溺れた。その1名を助けるために家族2名が川に入ったがその2名も溺れてしまった。川の中洲に打ち上げられた状態で意識を取り戻した1名（川に飛び込み溺れた人）が、意識呼吸がない2名（救助のために入水し溺れた人）を発見し、救急要請した。

（川に飛び込み溺れた者：40歳代・中等症
救助者1：30歳代・重篤
救助者2：40歳代・重篤

〈川、水遊び・遊泳〉

- 夕方、岸から川の中央方向に泳いでいた。途中で沈んで浮いてこないのを通行人が目撃し通報した。
（40歳代・死亡）

〈川、釣り〉

- 友人と川に入水し釣りをしていた。友人が流されたのを助けようとしたところ、自分も流され溺水。目撃者が救急要請した。
（30歳代・重篤）

〈川、釣り〉

- 友人1名と渓流釣りに来ていた。釣りをしながら川を下っていたところ、途中で友人とはぐれてしまった。探していたところ、川の中で倒れている友人を発見した。
（70歳代・重篤）

〈川、ボート遊び〉

- 友人とボートで川を下っていた際に何らかの理由によりボートが転覆し、川の中に投げ出された。川の中の何かに引っかかっているところを先行していた友人が発見し、通報した。
（70歳代・死亡）

レジャー中の水難と分かる救急搬送者で、ライフジャケット着用が分かる事例を、次に示す。
なお、非着用が分かる事例は見つからなかった。

〔レジャー中の水難事例 ライフジャケットの着用が分かるもの〕

〈川、水遊び・遊泳〉

■家族5人で川を遊泳中、子供が流された。着用していたライフジャケットが倒木の枝に引っ掛かり溺水。一般人に救助され救急要請となった。

(10歳代(15歳未満)・中等症)